

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090800010		
法人名	医療法人 富士たちばなクリニック		
事業所名	グループホーム 明月		
所在地	群馬県渋川市伊香保町伊香保525-202		
自己評価作成日	平成30年7月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/">http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成30年7月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様と共に料理や園芸を楽しんでいる。</li> <li>・外出(外食・ドライブ・買い物)に積極的に取り組んでいる。</li> <li>・施設新聞を作成している。</li> <li>・掃除をしっかりとし、きれいな施設を目指している。</li> <li>・併設事業所(通所介護)との交流を常時行っている。</li> <li>・慰問(小中学生、園児、サロン)で地域との交流を深めている。</li> <li>・毎朝ラジオ体操を行い、習慣的に身体を動かす時間を設けている</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>居宅介護支援事業所とデイサービスとが併設されており、それぞれのサービスの良さをグループホームの運営に活かしている。居宅介護支援事業所が地域を回り様々な情報やつながりを作り、地域柄一緒に働いていた方など馴染みの方が利用しているデイサービスからの面会や交流を行っている。また、ボランティアの訪問を多く受け入れ、そうしたつながりから、職員となった人もいる。管理者を含め職員間の情報共有やケアの実践への多くの意見交換から、現在離職者が少なく人的環境の変化が少ないため、入居者への環境変化も少ない。地域においては、地域で開催されている「サロン」へ入居者が参加し、同世代の方々との交流が継続して行われたり、事業所での認知症サポーター養成講座開催を今年度予定している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの際に復唱する事で共有し、実践に繋げている	半年前の管理者交代を期に、職員全員よりキーワードを募集し、選ばれたキーワードを議論して、理念をつくりあげた。日々の支援のなかで職員が意識し、理念が浸透するよう朝礼時に唱和したり、会議時等に対応のあり方について理念を基に話し合ったりしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方による慰問や、ボランティアを通して交流している	自治会に加入しており、道路・公園等の清掃・整備に協力しつつ、回覧板などにも参加している。地域からのボランティアの受け入れを行ったり、地域のサロンに利用者に参加したりしている。盆踊りなどの行事には、多くの方の参加がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設でのイベント等に招待し、認知症の方への理解を深めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多数参加して頂き、話し合いや意見交換が出来ている	大規模な食事会やりんご狩りなどのイベントに合わせて開催することが多く、家族の都合にて、日曜日開催を多くしている。家族だけで10名ほどの参加があり、話し合いや意見交換を行っている。しかし日曜日開催のため、家族以外の地域関係者等の参加が十分に得られていない。	地域関係者等の未参加者の打診を図り、参加が難しい場合には、事前に意見を確認し、話し合った内容を報告するなど、会議メンバーへの働きかけを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営寿司新会議等に参加して頂く事により、協力関係が築けているのではないかと	運営推進会議への参加や、困難事例や法律的な部分の相談などで、地域包括支援センターや市の介護保険担当と、日常的に適宜相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員同士話し合い、できる限り身体拘束をしないケアに取り組んでいる	あるマニュアルをもとに事業所で補足追加して、活用している。利用者個別の事例などを交え、職員間で話し合い、考え方の共通認識を図っている。虐待委員会を施設内と法人内で作りそれに参加し、あるべき対応の検討や相談を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士声を掛け合い、虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際に丁寧に説明をし、その後不足がある点に関しては時間を割いて説明するようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族の要望を職員で共有し、羽い出来るようにしています。	運営推進会議の機会に、様々な意見を聴取している。また、管理者は、運営推進会議後の家族だけの談話にも耳を傾けている。最近では「訪問歯科」の検討を家族と実施、外出時に体力低下を感じた家族と看取りやこれからの相談を行った事例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議を開き、職員の意見を提案できるような環境作りを行っている	毎月の職員会議、施設内全体の会議、入居者個別のカンファレンスなどの意見確認に加え、管理者に日々意見を述べて、即座に実行している。入居者に関わる物品購入品は、数日内に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談や、毎日の会話などを通して向上心が保てるようにコミュニケーションを取っています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を月に一回開催し、様々なジャンルでの新しい知識を吸収できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設での勉強会の開催や、交流会などを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のカンファレンスをしっかりと行い、職員間の連携を密に取っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の面会時、電話連絡時、メール等にて、近況報告説明を行い、ご意見や要望を伺っています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様が何を必要としているか見極め、よりニーズに沿ったサービスを提供できるように心がけています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームだからこそできるケアを心がけています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へ面会を促し、つど近況報告、相談をしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設のデイサービスに知人の方がいらっやっている日には面会に伺っています	事例として、馴染みの人が利用している併設デイサービスと、足湯・散歩・行事などで交流している。また、地域サロンに参加し、定期的に交流を楽しんでいる。旅館で働いていた仲間などが顔を出してくれる等継続した関係がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がトラブルを起こさないように間に入りつつ、良い交流が持てるように機会を作っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	積極的にコミュニケーションを図り、信頼関係を気付いているので、その後、相談等あれば援助できるにしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしさを活かせるようなケアを心がける	入居前の情報収集に加え、日々の支援を行うなかで身振り手振りなど言語以外の表現やリアクションを見て、確認している。日ごろの状態と異なっていることやサインを見逃さないよう職員間で意識し情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族様から生活歴を伺い把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の状況を把握し、日々の変化を見逃さないように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議で話し合い、しっかり情報を共有し介護計画を作成している	担当制で職員が、入居者の情報を集め、資料を作成し個別カンファレンスを実施している。その内容を参考としケアマネジャーと相談しながら、ケアプランを作成、またモニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	発言、変化を記録し情報共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様一人ひとりに合ったサービスを提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の催しに地域の方に参加して頂くなど行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様の希望を伺い、希望に応じて、納得のできる医療が受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医への受診は可能であるが、現在の入居者は少し離れた地域の方であるため受診介助等が難しく、家族の希望で母体病院をかかりつけ医としている。家族対応が可能であれば、医療機関はどちらを受診しても構わない。歯科住診を現在調整中である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回の訪問看護と連携を取っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院へ出向き、安心して頂けるような声掛けを行う。病院の関係者と情報共有を心掛ける		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の希望を取り入れ、最善のケアが出来るよう心掛ける	看取りケアを今まで数件実施しており、入居時に家族へ終末期の意向を確認し、医師等から看取りの時期と話があれば再度家族に相談して、意見・要望の実現に努めている。看取りの勉強会を、必要時に、併設デイサービスの看護師が実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の訓練、内容の把握は常に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行っている	火災における避難訓練を、併設施設と合同で、消防署員のもと年2回実施している。数年前の大雪を教訓に備蓄を多く準備し、法人との連絡体制も新しく作り直した。避難所として、避難所機能強化のための備品や運営を検討中である。	避難所であることを周知し、地域のためどのように貢献できる要素があるのか理解してもらい、安心感と協力が得られる相互関係の構築を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助や入浴など、プライバシーを保護した空間に成るように配慮している	職員の離職や異動が少ないため、相互の関係性が近くなりがちなことを注意し、必要に応じて指導している。年上の人であり、お客様である入居者に対しての声かけや人生の先輩としての尊敬と尊厳を持った対応に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	塗り絵など希望に添える様に見えるようにしている。おやつ作りなどでも何を作るか利用者様と相談しながら決定している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方は決まっていない為、毎日職員が何がしたいかを確認し、参加しないもご本人様に確認し行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は家族の方に協力して頂いており、その人らしいおしゃれが出来るように配慮している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りの食事やおやつなどのイベントを行い、協力して頂いている	法人内で一括調理・提供もできるが、グループホームらしくと職員で話し合い、入居者の希望を参考に専属の職員が調理を行っている。入居者はできる範囲で手伝い、食前に代表の方が挨拶を行うなど、それぞれができることを実践している。職員も同じテーブルで同じ食事をとり、食事と会話を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に水分補給に注意し、トロミやゼリー、甘いものなどで摂取しやすいようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりにあわせ、ハミングッド、歯ブラシ、ポリデント等の活用を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンも必要だが、訴えや行動を注意し、対応を行っている	多くの利用者がトイレでの排泄が出来ており、安全面に注意しながら、見守り等支援を行っている。排泄の訴えが難しい方はサインを見逃さず適宜誘導し、場合によってはオムツやリハビリパンツを併用している。内服に頼らず食事や運動で排泄を誘発し、できる限りトイレでの排泄が行えるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じ、きな粉牛乳提供、歩行運動などを活用し、薬に依存しない排便を目指している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の確認を行い、その人が満足いく入浴を出来る様にタイミングや順番を変更している	午後の入浴を基本とし、回数制限はなく支援している。日頃は事業所のユニットバスを使用するが、希望や状況に応じて併設施設の大浴場・機械浴や足湯を使用し、交流を兼ねて実施している。本人の好みや行動で入浴の順番などを検討する場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも傾眠傾向にある方には居室に戻り休んで頂いたり、入眠前に足浴を行うなど配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に分包しており、職員間でダブルチェックをおこない誤薬に注意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ノンアルコールビールやおつまみ、またブラックコーヒーの提供など、その人らしさの実現の為、希望に添うようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方にも参加して頂き、外出計画を建てている	家族と外出する機会も多いが、事業所にてドライブや外食など天候を勘案し実施している。事業所の前が運動公園になっており、外での食事会や外気浴、散歩などを行い、ゲートボールやスポーツの試合を見に行くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今は手紙のやり取りは日常的に行ってはいないが、電話の希望が強い時は御家族様にご協力いただき、行えるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や気候に合った温度調節を心掛けており、フロアには季節に合った飾りつけをするようにしている	明るく開放感がある大きな窓とウッドデッキがあり、入居者が持ち込まれた盆栽や鉢植えを手入れしている。窓からは菜園も見え、収穫を行っている。共有スペースには、飾り物や職員が作成したお便り、行事やお祝いの写真などが見やすく掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士でトラブルにならないように配慮しつつ、心地よい空間づくりができる様に配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた道具等の持ち込みをして頂き、居心地良く過ごせるように環境作りをしている	設備品はベット・洗面台・エアコンがあり、引き戸でプライバシーが守られている。私物の持ち込みも自由であり、入居者が慣れ親しんだ家具などが持ち込まれ、その人らしさや個性があるお部屋を家族や担当職員と作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活かし、出来る事への支援をしている		